ママでメダル 私も

仏選手 谷さんの助言胸に

Paris 2024 Olympic Games
▼1面参照

在日フランス大使館のイベント後、一緒に写真を撮ったクラリス・アグベニェヌ(左)と谷亮子さん＝3月、アグベニェヌのインスタグラムから

どうしても話を聞きたい、憧れの女性がいた。今年3月、合宿のために来日していた柔道女子63キロ級のフランス代表、クラリス・アグベニェヌ(31)は、東京・南麻布の在日フランス大使館のイベント後、彼女を引き留めた。

「ママになってからも選手として活躍したあなたは先駆者で、とても尊敬しています」

声を掛け、一緒に写真を撮ったのは、48キロ級で5大会連続で五輪のメダルを獲得した、柔道元日本代表の谷亮子さん(48)だった。

アグベニェヌは東京五輪で金メダルを獲得、2022年に長女のアテナさんを出産すると、「体が別人になった」と感じた。五輪連覇を目指していたが、柔道界で出産後にメダルを獲得した選手は少なく、不安を感じていた。

谷さんも06年に長男を出産。最初の国際大会となった07年の世界選手権で、「ママでも金」を達成し、翌年の北京五輪では銅メダルだった。出産後に競技に復帰し、勝ち続けることの厳しさをよく知っている。

出産後の気持ちの保ち方や、練習で何を意識すべきなのか。アグベニェヌは次々に質問をぶつけた。子どもの存在が大舞台に立った時こそ大きな力をくれること。練習で、試合に近い感覚を意識的に増やすこと、谷さんは、自身と同じ挑戦を続ける選手にできる限りのことを伝えた。

3位決定戦の直後に子どもを抱くアグベニェヌ＝AFP時事

「娘がすごくかわいくて、娘の愛情に力をもらっている」。アグベニェヌは谷さんに共感し、その後も娘を練習や試合に連れ、決まった時間に授乳をした。フランス・オリンピック委員会は選手村近くにホテルを用意し、育児中の選手が子どもと一緒に過ごせるようにした。

7月30日、アグベニェヌは3位決定戦で一本勝ちし、銅メダルを獲得した。そして、観客席に駆けよって、アテナさんを抱き寄せ、アテナさんを抱きしめた。一本当は娘に金メダルをかけてあげたかった。次の五輪でリベンジする」。悔しさとうれしさを込めた涙を浮かべた。

谷さんは「メダルの色に関係なく、彼女は輝いて見えた」とたたえた。「彼女の挑戦は、出産後に復帰しやすい環境を整え、次の世代につながる道を広げる」。谷さんが託したバトンは、しっかりとつながれている。

（河嶋優子、塩谷哲）

延期の末 セーヌ川でスイム

セーヌ川を泳ぐトライアスロン女子の選手たち＝長島一浩撮影

パリ五輪は31日、トライアスロンの男女行われた。今大会はパリ中心部を流れるセーヌ川が競技会場だが、水質の悪化で男子の開催が1日延期され、女子との同日実施となった。

トライアスロンは、泳ぎで競う「スイム」（1・5キロ）、自転車で争う「バイク」（40キロ）、走って競い合う「ラン」（10キロ）の3種目をこなし、合計タイムで順位を決める。

スイムについては大会組織委員会が水質検査を行い、基準を満たさないとされ、女子との同日実施となった。

セーヌ川は26、27日に雨が降った影響で水質が悪化、28、29日に行われる予定だったスイムの公式練習が男女とも中止になっていた。

（辻隆徳）

青鉛筆

＝JR東海テイリング・プラス提供

▽東海道新幹線60周年記念として、廃車になった車両の再生アルミを使ったストローが3千本の数量限定でネット販売中だ。1本税込み1580円。

▽デザインは3種類で、ドクターイエローとN700系ttYpeA、0系の車体をイメージ。飲み口は先頭車両をモチーフにしたこだわりようだ。

▽アルミ素材のため、冷たい飲み物を飲む際はプラスチックのストローより冷たく感じるという。猛烈な暑さを和らげてくれるかもしれない。

復興半ば 観光そろり再開

能登地震7カ月

「応援ツアー」宿泊は金沢

能登半島地震から1日で7カ月。夏の石川県・能登半島は本来、雄大な自然を満喫できる観光シーズンだが、復旧は道半ば。この夏休み、観光で能登を訪れてもいいものだろうか――。

（土井良典、上田真由美）

「復興支援ガイドツアー」では、人の背の高さほどに地面から突き出たマンホールなども案内する＝7月22日、石川県珠洲市宝立町鵜飼、上田真由美撮影

地震から半年の7月1日、七尾市の和倉温泉を視察した岸田文雄首相は、能登の観光支援策として、補助率7割の「復興応援割」を、復興次第、直ちに開始できるよう県体化を進めたい」と記者団に語った。だが、県は「少なくとも年内は難しい」（幹部）という立場だ。

県によると、地震で大きな被害を受けた能登6市町にある約300の宿泊施設のうち、約4割が7月までに営業を再開した。だが、復旧工事の作業員やボランティアなどで満室のところもある。

奥能登の観光は半島の海沿いをドライブするのが人気だったが、道路は大規模崩落で通行止めの区間があり、開通した区間も多くの観光客が訪れれば渋滞の懸念がある。

県は7月24日、能登に泊まることは難しくてもバスで巡るだけならできるとして、大手旅行会社と連携して1泊2日の交通に影響する。そろそろ「復興応援ツアー」の募集を始めた。

被災者自らが現地を案内

被災地の現状を知ってもらおうと、被災者が自ら現地を案内する「復興支援ガイドツアー」も始まっている。

珠洲市の住民でつくる「リブート珠洲」は、参加者のニーズを聞き取りながら少人数を受け入れ、半日程度まちを歩くツアーを実施している。市内で泊まれる宿泊施設は少なく、金沢からの日帰りを勧めている。

夏休みの自由研究をする子どもや、ボランティアの下見を希望する人、防災を学ぶ人たちなどから問い合わせがあるという。

案内する宮口智美さん(38)は、個人が特定できるような家や人の写真を撮るのは控えるよう呼びかけつつ、「撮って伝えていただくことも、復興につながると思う」と話す。代表で案内役も務める篠原和彦さん(64)は、訪れる人たちに「外の視点や良い意見を持ってきてくれる。これからも珠洲のことを考えてくれる」と期待する。

七尾市と穴水町をつなぐ第三セクター「のと鉄道」は、被災者が体験や現状を伝える「語り部列車」を計画中だ。東日本大震災後に「震災学習列車」を始めた三陸鉄道（岩手県宮古市）に赴いてノウハウを学び、9月からまず旅行会社のツアーに組み込む形で運行開始を目指す。

語り部は、のと鉄道の観光列車の案内役を務めてきた3人。チーフの宮下左文さん(67)は輪島市の自宅が全壊し、仮設住宅で暮らす。「いつか観光客が戻ってきてくれるまでの土台を、私たちがつくらなければ」

「外の視点持ってきて」

苦しむ人念頭に 学ぶなら意味も

観光学者の井出明・金沢大教授の話　残念ながら、被災地を訪れても写真だけ撮って帰る人も多い。実際にそこで暮らして苦しんでいる人がいることを念頭に置いた上で、例えば建築を学ぶ学生なら建物を見るとか、社会科学的な視点から被災社会の現状を知るなど、なぜ被災地に行き、何を学ぶかを自問自答し、自分なりの答えを出せれば、行く意味がある。被災地の人たちも、一期一会の出会いを、都市住民との連帯をつくる機会にできるといい。

3人殺害「自分がやった」

鳥取市で身柄確保の孫

静岡県菊川市本所の無職渋谷昭一さん(87)方で、渋谷さんと妻の育子さん(81)、次女の留美子さん(52)が殺害された事件で県警は7月30日、夫婦の孫で住所・職業不詳の元自衛官片山宏一容疑者(27)の身柄を確保したと発表した。3人の殺害について「自分がやった」と話しているという。腹部を自傷したとみられ、治療中だが命に別条はないという。県警は回復を待って逮捕する方針。

県警は同29日、片山容疑者を殺人容疑で全国に指名手配。事件後に電車などで鳥取県内に移動していたことが判明し、同30日午後7時ごろ、鳥取市内の施設の屋内で身柄を確保した。

事件は7月28日に起きた。捜査関係者によると、凶器とみられる刃物が現場で見つかった。渋谷さん方は二人暮らしで、夫婦は共に暮らしていた。

長女の息子だという。

（本間久志）

東京・羽田から能登空港に降り、能登半島を周遊した後、宿泊は約100キロ離れた金沢へ。翌日に再び能登へ戻るという「いびつな行程」（県の担当者）。9～11月の26回計800人を募集し、申し込みが入りつつあるという。鵜浩知事は会見で「宿泊場所の問題がある。どっと押し寄せるとそろそろとツアーを再開したい」と語った。

夏トクキャンペーン
新聞と一緒にデジタルを使ってみませんか？
切って貼っての作業が楽しい！ スクラップブックが増えていく感じもいいな
あれ？ スクラップしたはずのあの記事、どこだろう……
朝日新聞デジタルで「スクラップ」してみよう！
メモを書くことも できる！
自分のスクラップブックから 簡単に検索できて便利！
いつでも、どこでも、スクラップした記事が読める！
後で見返すとおもしろい！ 新たな気づきもある
宅配購読中なら、新聞購読料に……
月額 +500円（税込み） 朝日新聞デジタル
キャンペーン期間 2024年8月27日（火）まで
お申し込み方法 専用ページへアクセス
パソコンでもスマホでも
https://t.asahi.com/sa0801
または 今すぐ朝日 で検索
お問い合わせはこちら 0120-383-636 ガイダンスに従い、プッシュボタン①を押してください 月～金9:00～18:00 土9:00～17:00 ※日・祝日休み
朝日新聞 DIGITAL
キャンペーン概要　コース名：朝日新聞デジタル キャンペーン・ダブルコース　期間：2024年7月23日(火)～8月27日(火)23時59分　対象：朝日新聞（宅配）をご購読の方
注意事項　●お申し込みにはメールアドレスが必要です。●朝日新聞デジタルご購読期間中は、朝日新聞（宅配）をご購読いただく必要があります。●キャンペーン・ダブルコースは6カ月契約です。その後、6カ月単位で自動更新され、引き続き月額500円（税込み）でご利用いただけます。●「コース変更」または「解約」は「契約変更・解約可能期間」にお手続きください。※ご契約日（更新日）から6カ月目の1カ月間が「契約変更・解約可能期間」となり、その後は6カ月ごとの自動更新となります。●本キャンペーンのお申し込みは、ご本人または同居の方が朝日新聞（宅配）を購読されていることが条件です。●法人のお客様はダブルコース適用の対象外です。朝日新聞デジタル法人契約をお申し込みください。

掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
Copyright The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.